

令和7年度 東京都内湾水生生物調査 2月稚魚調査 速報

●実施状況

令和8年2月3日に稚魚調査を実施した。天気は概ね晴れで、気温は6.8～12.0℃であった。調査地点の風向は北から北北西で、風速は2.6～4.1 m/sであった。調査当日は大潮で、干潮は12時4分、満潮は17時34分であった(気象庁のデータ)。赤潮は今回の調査では各地点ともに発生していなかった。透視度は高い値が観測された。採捕された生物は、全体的に個体数が少なかった。秋季から冬季に見られるアユの稚魚が葛西人工渚で確認された。スジハゼ類とマサゴハゼが森ヶ崎の鼻で確認された。ウキゴリ属はお台場海浜公園で確認された。魚類以外ではエビジャコ属やイサザアミ属が確認された。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
調査時刻	9:15-10:30	10:59-12:30	13:45-15:00
水温(℃)	10.0	11.1	12.9
塩分(ー)	30.4	26.0	31.9
透視度(cm)	>100	33.0	76.5
DO(mg/L)	8.88	8.57	9.21
DO 飽和度(%)	95.3	92.2	106.4
波浪(m)	0.1	0.1	静穏
pH(ー)	8.19	7.96	8.18
水の臭気	なし	微カビ臭	なし
備考	なし	なし	なし

●主な出現種等(速報のため種名は未確定)

主な出現種等	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
魚類 (多い順*)	ウキゴリ属(r)	スジハゼ類(r)	アユ(+)
	—	マサゴハゼ(r)	—
	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—
魚類以外	アミ科(c)	アミ科(c)	エビジャコ属(r)
	ドロクダムシ(r)	ホンビノスガイ(r)	アラムシロガイ(r)
	エビジャコ属(r)	アラムシロガイ(r)	イサザアミ属(G)
備考	なし	なし	なし

*)表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

お台場海浜公園 採取試料



水際から数mで急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

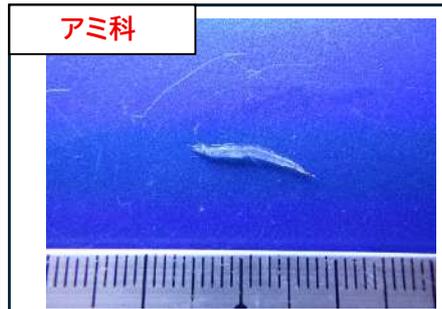
主な出現種など ※写真のスケール 1 目盛り:1mm



産卵期は冬から早春で、稚魚は3～5月に干潟域に出現する。成長とともに川を遡上し、河川の中流から河口域で生活する。干潟域でみられる稚魚にはウキゴリとスミウキゴリの2種が混じっていることが多い。



稚魚等を捕食する小型甲殻類。内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させることができる。



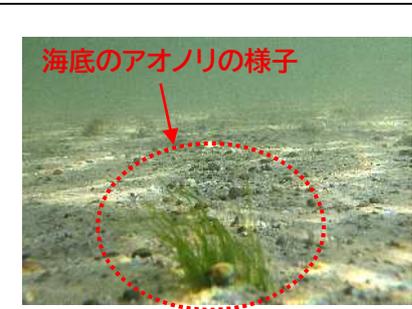
汽水域に生息するアミの仲間(エビとは異なる)。河口域で春に大量発生し、魚類等の餌として重要である。内湾や河口などの汽水域の干潟でみられる。



全体的に褐色で触覚や胸部に濃褐色の帯がある。内湾性で、潮間帯下部から上部にかけてみられる。主に懸濁物食者であるが、小さな甲殻類などを食べることもある。

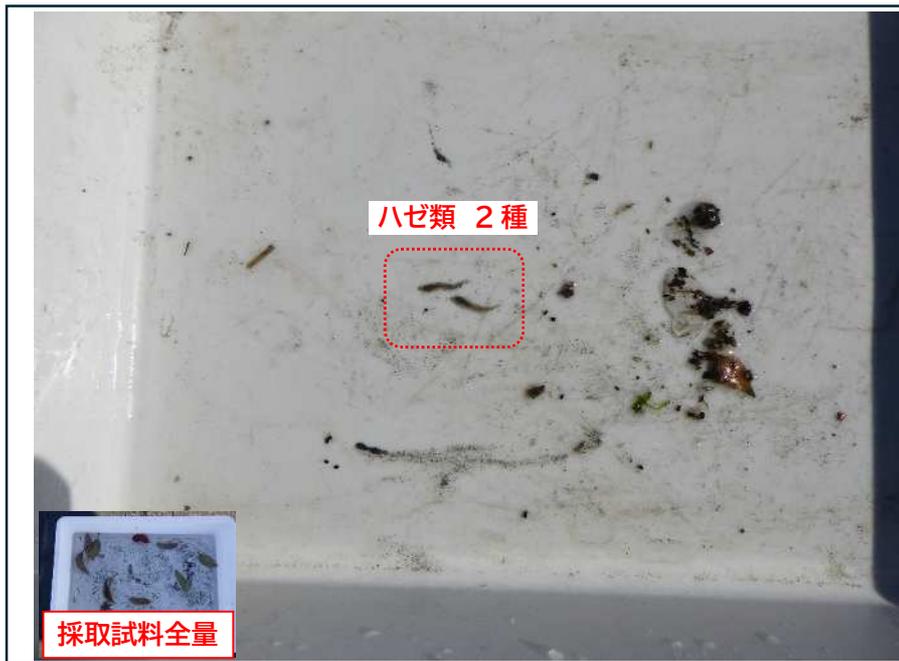


アオサの仲間(緑藻類)。東京湾奥の河口等の汽水域では、スジアオノリ、ポウアオノリ、ヒラアオノリ等が生育する。食用になり、乾燥させて粉末状にしたものが「青のり」である。



アオノリ類は潮間帯の岩やコンクリートに付着して生育する。波の穏やかな渚では小さな石に付着している様子が観察される。冬から春にかけて成長し、長さ1mぐらいまで成長する。

森ヶ崎の鼻 採取試料

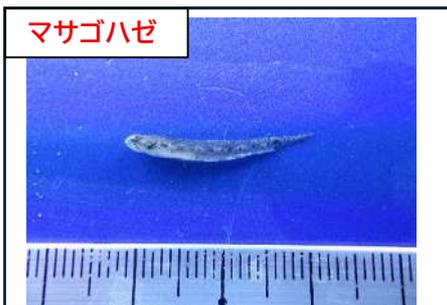


羽田空港北側にある干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。

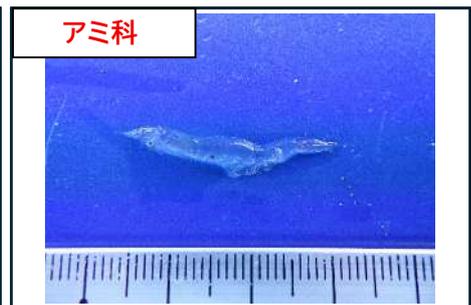
主な出現種など ※写真のスケール 1 目盛り:1mm



干潟等の砂泥底に生息するテッポウエビ類と共生するハゼ類。体側に二本の縦線と瑠璃色の斑点をもつ。今回採捕された個体は小型で幼魚と考えられる。



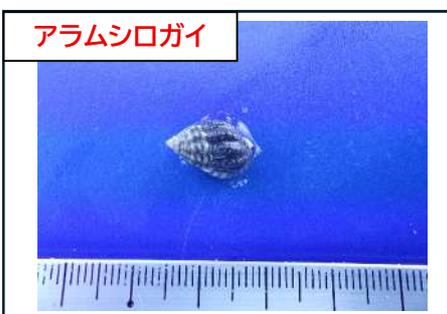
良好な環境の保たれたヨシ帯や塩水湿地で砂底のやや平坦な場所に見られる。頭部はやや縦扁し、吻が丸く突出する特徴をもつ。



汽水域に生息するアミの仲間(エビとは異なる)。河口域で春に大量発生し、魚類等の餌として重要である。内湾や河口などの汽水域の干潟でみられる。



北米原産の外来種で殻長 10cm を超える大型種。殻は本来白色だが、貧酸素環境で生育したものは硫化物の影響で黒ずむ。本地点では調査中にしばしば本種を踏んでしまうぐらいの密度で生息している。



殻高 15mm 程になる。殻の表面には粗い粒状突起が並ぶ。干潟から水深 3m 程度の砂泥底に生息する。魚や貝の死骸を食べる性質があり、「海の掃除屋」と呼ばれている。



甲幅 3~4cm 程になる。日本全国に分布し、河口の転石の下、カキ殻の中、護岸の隙間などに生息する。成体のオスのハサミの付け根に、毛の房がある。

葛西人工渚 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

主な出現種など ※写真のスケール 1 目盛り:1mm

アユ		
<p>夏から秋にかけて河川中流の砂礫底に産卵し、10 日～2 週間後に孵化する。仔魚は干潟周辺で 3～4cm になるまで滞在する。海で生活する間の魚体は透明感が強い。近くを流れる江戸川では 3 月～5 月が主な遡上期間とされている。 (左:ふ化後 90～150 日、右:ふ化後 30 日程度の個体と推定される)</p>		

エビジャコ属	
<p>稚魚等を捕食する小型甲殻類。内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させる。</p>	

アラムシロガイ	
<p>殻高 15mm 程になる。殻の表面には粗い粒状突起が並ぶ。干潟から水深 3m 程度の砂泥底に生息する。魚や貝の死骸を食べる性質があり、「海の掃除屋」と呼ばれている。</p>	

イサザアミ属	
<p>汽水域に生息するアミの仲間。体長 10mm 程になる。河口付近で春に大量発生し、魚類等の重要な餌となっている。</p>	

カイアシ類	
<p>ウオジラミと呼ばれる魚類に寄生する 5mm 程度の甲殻類。頭胸部全体が吸盤のような仕組みで魚の体表などに吸着して寄生する。魚から脱離して水中を浮遊する個体もいる。</p>	